

東海創玄書道會

NO. 52

2016

東海創玄書道會



展示作品



会場風景

第 51 回公募書玄展

と き:平成 27 年 5 月 5 日(火)~10 日(日)

と ころ:愛知県美術館ギャラリー

書玄展も昨年 50 回を終え、本年より新たに公募展としてスタートを切りました。例年の様にテーマに添って書かれた作品を「創作の部」とし、新たに「臨書の部」を設けて二部門での作品募集をしました。

公募第一回展のテーマは、一昨年の『山月記』に続き、中島敦の『李陵』としました。やや難しいテーマでしたが、出品者がそれぞれに思いを凝らした作品制作をして、バラエティーに富んだ明るい会場となりました。ワイヤーを使用せずピンのみでの展示や、枠のないパネル張りの表装等、例年同様吸月堂、会員並

びにスタッフの努力の賜物であったと思います。

また、入賞作には個性的な作品を選び、作品を思考する方法性を示しました。次回に向けて、自分で考える制作を更に望みたいと願っています。

ともあれ、公募第一回展を無事終えることが出来ましたこと、関係各位に感謝申し上げますと共に、御多忙の中、御来場賜りました皆様に厚くお礼申し上げます。

(平成27年7月10日 加藤 裕 記)



香木会20周年・香木会展10回記念展

と き:平成 27 年 5 月 15 日(金)~17 日(日)

と ころ:岐阜市民会館 2 階 展示ギャラリー

岐阜県の教員を辞めてから香木会を発足し、20年、香木会展10回を迎えることが出来ました。3年前の9回展で辞めるつもりでしたが、切りのいい10回迄やりましょうということになり、今回は記念展として頑張りました。テーマは、「感謝のメッセージ」として今日迄続けて来られたこと、家族や仲間の応援で続けて来られたことに感謝したメッセージを題材にして、書作しました。パネル作品の表具も自分達でやりました。小作品も自分で表具し、1人2点以上作りました。また、今回力を入れて制作したのは、古典の臨書の共同作品です。19人全員で仮名と漢字の2種類を書きました。仮名は「継色紙」

を半切の2分の1に拡大臨書し、「継色紙」の原色もそのまま再現しました。漢字は「争座位稿」と「金文」に分かれ半切2分の1か3分の1に1字か2字を書き、手作り屏風に仕上げました。

記念展ということで、今までの9回の展覧会を振り返り、写真とその時展示した一部を展示しました。香木会員も20年の間に出入りがあり、自分達も整理しながら、懐かしく思い出されました。弱小社中ですが、毎回テーマを設けて、様々なものに書作してきたものを見て頂きました。

今回3回目のパフォーマンスも会場でさせていただきました。会員の方7名で生きものがかりの「ありがとう」の曲を今回のテーマに合わせて替え歌にし、曲を流しながら書きました。私は「感謝のメッセージ」を「希空」の生演奏で書きました。沢山の方に見て頂き大変幸せなひと時でした。

会期中には加藤裕先生はじめ、東海創玄の会員の方にお越し頂きまして心よりのお礼申し上げます。少し休みを頂き、皆でよく話し合いこれからの香木会の方向を決めていきたいと思っています。御支援頂き有難うございました。

(佐々木香魚 記)

会員 News

東海創玄書道会役員

最高顧問	大井 錦亭			
名誉会長	石飛 博光			
顧問	安藤 滴水	加藤 裕	黒田 玄夏	
	高木 光風			
参事	永井 恵子	服部 祥石	前田 小鶴	
代表	川合 玄鳳			
代表補佐	大島 緑水	川口 雄峰	武内 峰敏	
常任理事	黒田 寿水	後藤 啓太	鈴木 史鳳	
	高橋 栖雲	瀧川 山翠	仁田脇京華	
	長谷川鸞卿	廣澤 凌舟	吉田 清城	
	吉村 和子			

第67回 毎日書道展（東海創玄関係分）

○当番審査員（漢字部Ⅱ類）	加藤 裕		
（近代詩文書部）	前田 小鶴	吉村 和子	

創玄書道会役員

名誉会長	中野 北溟			
会長	大井 錦亭			
副会長	内山 玲子	関 正人	関口 春芳	
理事長	石飛 博光			
副理事長	永守 蒼穹	室井 玄聳		
	（以下東海創玄関係分）			
理事	加藤 裕			
監事	川合 玄鳳			
参与	黒田 玄夏			

中部日本書道会役員（東海創玄関係分）

名誉副会長	安藤 滴水			
常任顧問	黒田 玄夏			
理事	大島 緑水	加藤 裕	武内 峰敏	
第二事業部長	佐野 翠峰			
研究部長	廣澤 凌舟			
教育部長	後藤 啓太			
褒賞部長	武内 峰敏			